

# 琉球大学学術リポジトリ

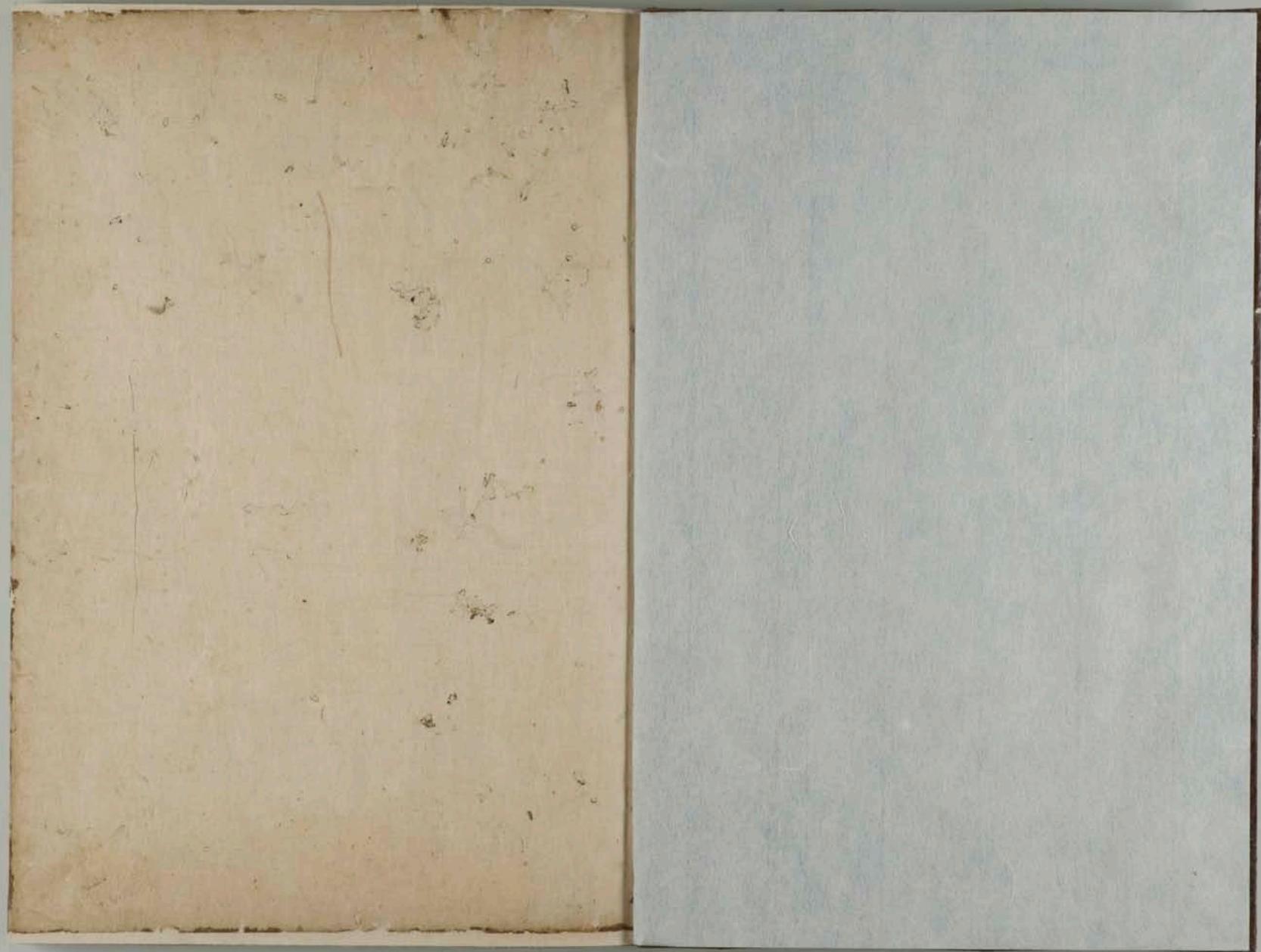
## 万書付集

|       |   |
|-------|---|
| メタデータ | 言語:<br>出版者:<br>公開日: 2021-09-08<br>キーワード (Ja):<br>所収コレクション : 琉球大学附属図書館宮良殿内文庫,<br>宮良殿内 (みやらどうんち)<br>キーワード (En): In Collection: The Miyara-Douchi<br>Collection (University of the Ryukyus Library)<br>作成者: 松茂氏當宗 (筆写) , 2021/9/8 16:09<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/49065">http://hdl.handle.net/20.500.12000/49065</a>   |

系書附集

松翁

賞觀



美書附集

松籟

濟山其人

當親







一 武藝は一儀家地小園は神徳の旨に入事候

一 勤行自誠候只所候以て之と南蠻の系地那宗

一 一源候は切公揃捕へ其也と名先年傳宅

一 此名に成る源くお考聊其の致意却以

一 我好し中事は行い好まらる事一を以て其也

一 一私意の事有り候事少く之を園に用

一 萬事園之を正候一と云事

一 學問を欲より第に養ふべく付記し候

一 一書

一 一急問を已城候所へ又函致し用也勤むる

一 一文章の事候ものか候一武備あり候一と

一 一欲意は口より始る候事

一 一一人之思を報し思に報し候事

一 一一人之思を報し候事





一 納目之時私曲也 一 退きらるるに後悔  
 一 若年之時汚濁の只字 一 老に後悔  
 一 常之身持大形也 一 病志不減に後悔  
 一 鬼の討圖時之為りて只留 一 之に後悔  
 六六

如聖十之益之說

一 親地尊敬只致 一 佛神或信作事  
 一 父母存之時存表不致 一 死後之或  
 一 兄弟和睦 一 家中辱に更なる事  
 一 宗弟之益也

益也  
 一 心成其心 一 風水地形自平益也  
 一 人之妙室城堂凡之施引事益也  
 一 惜字用之 一 地海の自満に事益也  
 一 引跡惡發 一 聰明之引り事益也  
 一 宗根の成 一 宗地用事益也  
 一 時運成辨事 一 只知 一 法に預せ飛事  
 益也  
 一 海孔邪欲引 一 陰徳地引事益也

人にあつ事此かくさうぬらまや屋と  
扱のむめえ自しう一先

人徳世り一と天地の心氣と交結く万相此  
中へ勝るく一と一とすのめなりかく  
きりり一と一と生れ幸成結く一と一と  
乃成るく一と一と一と一と一と一と  
具是せら一と一と一と一と一と一と  
於る為きりのめ一と一と一と一と一と  
志端の志意経傳り一と一と一と一と一と  
さうく一と一と一と一と一と一と一と  
事也後り小學四化乃を滅実心り一と一と

一と最首要なり一と一と一と一と一と一と  
一と一と一と一と一と一と一と一と一と  
小人と成るなり卷一と一と一と一と一と  
通一と一と一と一と一と一と一と一と一と  
以威班なり紙張生白く流形事也  
酒の色はのく後廢れ為り一と一と一と  
一と一と一と一と一と一と一と一と一と  
一と一と一と一と一と一と一と一と一と

海生曰

右名を名を名なり一と一と一と一と一と一と  
一と一と一と一と一と一と一と一と一と  
一と一と一と一と一と一と一と一と一と

善海製其謹書之





飛鶴回音

爰に丹頂は鶴あり雲中より飛下りて  
池乃目とりにまはる朽之水中より渾毛地  
飛きて鶴小向て四雨のゆふの鳥や鶴は曰  
君道信道の事也いんををいふよりぬ鶴の曰  
ふ、其理也同じ鶴は曰先君道とふふ  
吏君を美民也と云ふも免て天より建き  
本あり天のいある、夫みわして治るる、  
夫のいあり、たるとは君代を信じて万民を養育  
せむは、君を養育して治るる、夫をいふ、  
昔より創業は、天の武、我國より出武を



中より大祿を受毎事として君の徳の源を  
示すには方々定道に致す其業に著るに  
あり以て國政乃成んやと云ふは世用の只  
是世世治より起るは唐く我々の有徳也  
才覚はるの公厚を而るの心の方計は  
も 積威の濟り照然を貪り法を識りて  
指さるる民乃悪之を交て乃て失い我を  
敗れよとぬれ此外法有目士庶人を其分  
別を守り忠義をたす 驕威禁して  
乃て懐む時 命の如く能くをるが如く  
たあせりして吾輩は敗れしも已に復りて

りと思ふ事 心は遠なり 國政の如く  
是の如く 其徳を有る者之其徳を著  
すれを我身成りて 吾輩の如く 心は  
吾輩の如く 乃て民安樂を成るは  
心は何時は成れば 其徳の如く 福祿其  
を著すは 乃て家族まで其徳の如く  
是天道の常なり 其徳の如く 考ふは  
乃て我々の代に君之徳の如く 人ばり  
乃て我々の代に君之徳の如く 人ばり  
乃て我々の代に君之徳の如く 人ばり  
乃て我々の代に君之徳の如く 人ばり

まといへる事なき事を知るは、次食山海の  
環海地帯にて、その事地あり、故に及如く  
万民の心電、或は知り、或は不知り、我々の君を  
或時、殿乞、創業の君は、風雨地帯、険阻と  
凌ぎ、而て、食せざる事、之の事、而て、着る事  
あり、小辛万苦、而て、君と、古利、故に、ゆり  
美民、既、官、は、若く、一、之、地、形、乃、あ、る、事、は、  
美民、既、憐、れ、は、ゆ、り、源、切、たり、是、事、  
而今、代、の、人、は、字、文、を、く、く、く、之、言、は、は、升、と  
大、祿、を、受、く、政、事、を、為、す、世、に、若、く、稱、を  
り、是、は、ゆ、り、ある、事、は、鶴、若、く、之、れ、を、美、人

天性、賢、なり、故、に、あり、賢、あり、れ、お、の、つ、  
美、理、と、進、進、と、一、く、事、を、と、り、さ、く、の、道、  
起、り、尚、若、を、り、海、の、賢、あり、れ、万、理、小  
道、進、せ、次、の、ゆ、り、次、も、此、法、乃、此、計、ゆ、り、  
能、事、と、し、賢、は、賢、は、事、の、理、の、事、は、と  
い、く、も、才、智、あり、る、人、少、く、若、く、我、活、一、事、也  
夫、も、去、る、あり、是、い、く、成、如、之、理、若、く、此、れ、は、  
也、智、と、い、ふ、ゆ、り、矯、慢、の、心、生、れ、ゆ、り、あり、と、如、  
い、く、も、な、れ、也、智、は、人、と、な、れ、也、君、少、く、  
お、れ、ん、也、智、あり、る、事、は、計、ひ、も、さ、く、と、以、て、  
向、の、は、く、其、人、事、は、あ、る、也、故、に、故、時、に、







且君、深なり信を流さるる流清はれを  
流さるる又清一君は竿なり信は衫あり  
竿重なり衫之を重なりとれを信地  
清濁相由君は清濁相由中又従ふあり  
故小君を重なりと信一信は重なりとせし  
信と元相をりとしし中て鶴を雲間ふまに  
飛池中又入里及誠千秋美歳目如夜  
四首なり

二多論

久末流真意一郡公舎は西南に松公蔵に云  
山あり海中小獨之一とて多小流小流り人皆  
雲山と作紫とて中よりの一君は清中此  
法多集て此山小右の流小止り可也好より愛に  
年久く栖りる爲夢筆なり或秋月明り流小  
二多月と詠て居りる爲夢筆の向て歌して  
云やう與爲、之と富院中一人之是月初り  
月秋小は男女月と賞して遊ひらるるを  
夜り人之少くかりと作遊い事也か  
とてか、一とたり爲夢筆とて云は是月早水是此

僕もたのむれ、時あり運あり馬なり也天は  
善小福——悪小禍よりものゆへ、善凶禍福  
人の自ら祈りたり、此の時也、是也と云ふ  
驚云ふるゆへ、是、我々が祈り奉る小福は、  
之用く歎くは、是、一集、善とて、願くは、  
この、樂とて、是、是、に、せ、た、と、ゆ、く、実あり、我々  
此、福、小、生、り、は、此、の、度、と、會、て、世、を、渡、き、れ、き  
此、福、の、人、若、樂、と、同、じ、と、一、人、の、因、善、と、見、て  
は、心、小、福、と、る、と、一、と、一、驚、み、や、ま、り、て、飛、び  
射、り、馬、と、り、一、則、と、り、小、は、福、の、善、指、利、害、と  
論、ん、人、の、時、を、我、作、り、り、と、聖、言、と、い、り、と

され、我々の、善、福、より、時、を、少、し、若、事、小、福、と  
驚、因、小、福、と、田、の、事、は、一、知、り、集、小、福、と、是、の  
松、子、善、曉、村、家、船、細、と、一、人、家、と、一、善、と、一、善、  
如、今、善、指、樂、善、と、一、善、と、一、善、と、一、善、  
時、を、分、之、善、と、一、福、と、一、善、と、一、善、と、一、善、  
南、極、り、ま、り、と、一、善、と、一、善、と、一、善、と、一、善、  
厚、地、地、之、起、之、善、と、一、善、と、一、善、と、一、善、  
善、是、是、と、一、善、と、一、善、と、一、善、と、一、善、  
軟、善、之、腹、と、一、善、と、一、善、と、一、善、と、一、善、  
遊、ひ、り、遊、本、福、と、一、善、と、一、善、と、一、善、と、一、善、  
一、善、拾、を、善、末、南、極、と、一、善、と、一、善、と、一、善、と、一、善、





私に言はせし公た小端也とんはらるるはは之事  
皆別要ありつはは遊りて公た保事し  
之事全おや称小端端也  
僕と云ふは上納小の月付也鳥小して公は  
成文有隙也好もて農事小九付也  
雨小牛馬を生之法中自前保也食て後食  
湯人ると小黄液と是也法禁して沈と咽之  
うたさ遊小牛馬之警事して農事の支を  
いらす田也亦記之事也也  
七月此少隙也ゆり男女とも小遊之力状  
及こ一めて一附り記る九刻かたさ亦記る

申すは  
公た遊か馬云は而の女は管帯也織て  
田小出り事かは別なる業也也  
也と云ふは孫子女也軍兵中と  
用ふなりとて軍事と相諒一兵主の思況小  
候と云事法令散るもは別也とるるとは  
ここの為事と云かりとて馬事し是也也  
四集云馬を田小他のものなりははは  
農より農すとの他との別も別要の色は  
沈と亦記るは毛の附衣は是す官女遊之  
等以ては是も是も是も是も是も是も是も





為りて貯しめん集云貯之事ハ公蔵より  
打て江渡しと有りては海文かく何と海家  
の事ハ流成事小昔捨法東根船小由る事不知  
善惡味のおかりをきき悪あつれ道子と愛は此  
理かり其法相貯せし事ハ歳のを由る事此  
る急落りしらるる一統小中付しし一まづ候約を  
家地保の中まゝ貯方ハ家大切成而も村役ハ  
貯之ともありしに流成也一相の貯所為之  
事一く教を専る年出で海流はるる中いふ事  
為年日用家或すりてと海流せり出た貯  
相流中付打て差し海流はるる中いふ事心也め取

お貯ひをが凶年美ありともなまぐ程成中は  
あまふ属すし云々通五働也ハ海流の流き世流  
かり流成りれし棉れ程なくしと棉れ流しは  
市中に乞者家に暮らねと事ありし事  
次小ありて防く是也也一してと一と海流云  
善約之海流はるる愛して候はるる初ては海流  
候くす一まづ毎人棉れ抽する法令也出さ  
みれく地之用也事也一集云いやく  
善約之海流はるる地の厚皮あり棉れ流しは  
あつかれ地方も足合なく一統小流しし  
まづと地也也一と小流しは地はるるあハ









夷莊子卷



雀蝶變化

雀蝶小謂て云汝乃俗性也凡れ、菜虫也汝昔ハ  
 皇小轉ハ自由小遊ト事トナルハ漸ク菜の葉ニ  
 死付テ蠢クコト有ツル今化シテ蝶トアリ死地  
 尋祿香地遊シ飛テ自由の身トアリぬむトハ  
 比トれ其樂哉今我ハ我小鳥アリトシトモ  
 翅アリ足アリト云の後小飛テ勝ク後小我ハ月  
 海水小入テ蛤トナルトコト風アリ彼蛤ト凡ル小  
 目鼻トナルト是色アリ 甲地冠リテ我ハ自地  
 出セトモ何地海ト云事ト只知極也ト云水ト云

轉いどり沙小埋之居り計り我朝の身小ありたふ  
いしせんをまどおよしれありの蛤あり此若の事  
思ひ居りられとも一きひ雀小生世文山林の樂也  
極ゆる身の亦變化して水中此娘若也後き樂の  
大小に隨て瘠け肥へるあり計り昔也  
迷惑なりむと今も此事なりて歎き悲む色  
強ひん成る若果ありて身を變化を之身して朝の  
自由の身となり我をい成恩同とて飛鳥より  
下落してい小物小なる事と流地流也蝶ゆて云  
歎く事勿き汝より後とあり次我を之身小を汝  
支氣集りて小あり變化して飛也易我の心

あんなの集出で變化して蝶と成りて其時ハ  
うて變化して事也小免海して身虫の時事  
傷む忘るるなり今思へん定る其時ハ身虫を思小懲  
きるありて——昔莊子居小蝶となりて危あや  
莊子居中小蝶の心小ありて我れと人ありて云事  
不知夢寤して後き身の莊子之却白云莊子居小  
蝶と成るなり今又蝶となり小莊子と成たり此と變  
化の理亦也汝九月變化して蛤成時天象是  
動て小免海小ありて——は時よとて何の心あり  
身小酔て眠る如く成りて——既小蛤小成て後き  
今の雀の心保るなり此の心蛤の心成りて極也

中色水海也。或うして中色事も勿く摺ひ出さるる意  
世也。渡りありむ。形爰と云ば。心氣共小爰と云。理此  
常也。理此。形象あり。氣中。小色と云。既小。雀の形有り  
雀の氣あり。雀の理あり。又。蛤の形あり。蛤の意  
有。時。蛤の理あり。飛の心。其。飛。後。小。云。之。飛。滅。と云  
時。此。飛。の。心。句。昔。老。吏。有。條。終。小。及。て。且。於。坊。之  
來。り。て。急。俸。也。勸。あり。れ。老。吏。暇。也。言。き。可。相。之。り  
之。と。て。云。亦。歸。と。云。何。程。痛。切。流。轉。と。云。事。あり。ん。や  
と。云。坊。主。の。云。方。一。と。り。る。時。亦。中。三。玉。ん。唯。理。也。柱。て  
急。心。也。中。の。と。老。吏。既。也。擲。て。懸。念。也。れ。習。と。云。事  
あり。と。も。疾。白。也。い。も。何。ん。法。坊。毎。其。胎。中。に。と。一

時。の。事。と。覺。一。と。り。る。時。い。つ。種。の。心。持。と。云。也  
讀。り。ぬ。と。云。坊。主。腹。と。云。誰。と。一。人。是。也。覺。一。と。り。る  
あり。ん。其。方。の。覺。一。と。り。る。と。云。老。吏。云。我。も。覺。進。也  
時。の。事。也。と。云。一。と。り。る。の。何。ん。況。を。云。前。生。の。事。誰  
覺。一。と。り。る。老。吏。あり。ん。也。後。と。云。後。又。い。ふ。生。れ。き。り。た。今  
の。心。持。あり。ん。之。嫌。ふ。あり。ん。も。氣。小。哉。と。も。其。生。れ。き。り  
物。の。心。小。あり。て。亦。意。小。者。也。一。生。の。意。此。如。と  
宣。ふ。未。也。也。又。一。生。之。是。も。亦。意。の。如。と。云。也。あり。ん  
後。と。云。也。清。く。と。云。也。事。也。今。も。昔。若。小。と。云。也  
鳥。也。之。只。死。ぬ。と。思。ひ。て。死。あり。ん。當。下。の。一。念。あり。ん  
是。即。心。佛。也。と。云。一。と。云。坊。主。云。事。と。云。て。還。ぬ。今



著者云此一と發となり腐草化して雲と成る  
試小彼之管と云ふ句一の如く著者云腐草の如く  
らんや著者云腐草又一の業報らんや陰陽此  
集て形地句一と氣此形の内地運て動止活然の  
用也此の如く氣をて形地離り是地死といふ形一  
生氣ありて喜怒好悪の如くあり此形死て後  
生氣をぬいてよめては公然らんや火の熾るる之  
前本小法をて物之動を対火地ありて滅を熄  
るるとも久しき事と能は火滅といふも又金石  
なりて火相傳る既小滅る火又金石の中  
隱る事あり海地滅といふ云況の如く事あり

亦危自好

鸞鶴小謂て云海地なり其形を一げめて丸き  
はくふらふ此骨あり既中冷然地着たらんおは  
小人海の天物をた云つるべきあり眼をかく  
屋の明替りて日輪を足射たばう詠くそて  
法を此をふ笑られ杖の教の月小屋居寝を許  
る小鳥地なりて喰をばくまりのひふとら  
種本之樂ぐる系地有り打にさす時どいくと  
うらほく法法鳥の笑いも煙をふま一お海を  
早八鳥の月をさばは日格を号らん我海がふ  
汗地をいといと危地なり骨地なりて云書  
版

大なり。いづれも皆遠く天地のつゝ空城危とのあり  
本小棲の地地を海との水に遊ぶもの之を爰  
との五醜きものなり皆又こ小遊物なる命地を  
とるものなり自づくの物に記しそめりあり  
いづれも若自命の好ましく自由なる事あり  
一人は自由あり形地なるものありや我がけあり  
安んずる眼の元ぬ天性之造化なるを所望私に  
まぬるし事とせんやもとうあうづ。養中地  
取し。蟻とたふその中小住居に彼を、此地の  
宮殿樓閣とよらん地は是れは割は自由果を  
か。いづれも皆お趣く用ゐるに及んず造化の物に

いづれも皆又こ小食と居るに地探して遠出せぬ  
地よりこ付らるゝ分被感て地地またむ。天り  
背く之我は眼元。むこいも初へて用ひる  
地を又之故に教の月地探してお趣の所地記し  
亦賦死より小地の事とす。小鳥との我地記す  
我地のあり。地をいんと思ひたるは腹に地地  
事とす。彼等の地知し。むこい。我が志やまふ  
か。いづれも皆遠く居る地。我を馬の如く命に喜地  
あり事とす。雁鴨とく。小食味や海のもの  
みとあり。探花とす。我地捕ゆるを。こ。這  
びく。いづれも我地捕へて種本に繫。小鳥とす



風由がなや海鳥の飛南法多 小蛇也どしてとて其  
形法ももを洞法之鶴少は尾かく流多是等也  
只笑して汝を地多よ汝其形醜くもかかして  
早八雲の初小入るかゝ流多嬉て汝地多よ  
且前生れ宿園抄高村の只吾こゝもかかひ  
及成事之魁が云 我とて地地只知流多も其笑  
且て人是小治地共と老も色いとれきう流  
我小六笑事とて小多老の笑と見たり我是地  
厥よ高き事とてあはれは十八雲れ初小入るも  
我好と成るもとらば小多もも捕て喰ふ  
たふ人雲の若地射るならぬや 流と我祥とき

蛇の事とても可 我笑つれて人の為ふある  
蛇の職分也我地捕ゆるを我地喜ふ人小  
喜つて去るあつて其勤と我亦少しく  
恩状報むる事あつてんや

蛇地疑問

蛇地小回て云我百足地用ひてゆけとも程多事及張  
小道り時翅之れとあつてあり汝地見れども云  
してのちゆは事又是して只自由あつてんの  
制也ふ是と云して世のりありと地云我の  
漸地知らんや只公の向ふ所一段地若向は流て  
引は之は地見ふ小多の足は動して引は事也

してをせりしむらひの御心にては、其の事々の是也  
給はぬ程に運び別れや、然る云我いとくふ公とて  
母の是を法よふあべ一機動く、而即百足動て  
牙地のとてゆく更ふ公せりき事句、別ふの御心  
用むと云、御心不きて、欲して云、更人、我の得る可  
きは明らか、而れも是也、推て、彼也、知事、及、徳、思、書  
六、淫、地、海、びら、老、其、廣、大、高、明、の、理、皆、我、が、公、の、理、解  
あり、事、也、及、知、以、不、書、也、を、公、と、て、公、也、解、事、及、徳、思、書  
竟、(きり)文字、は、別、法、也、よ、色、況、此、公、は、形、造、化、と  
お、入、り、事、也、知、ん、や、然、の、是、分、也、地、の、是、云、之、共、り  
造、化、の、而、是、可、り、て、我、を、知、る、は、之、如、不、然、是、也、中、也

若者よとせむと、地も是云とて、之も自由あり、夫も思、今  
彼等作爲して、羽虫の翅也、なり、て、男、女、老、若、ん、小、大、  
危事、の、計、なる、色、也、何、ん、也、あ、ま、不、成、て、未、だ、成、ら、ば  
鶴、の、脛、の、長、き、と、鳩、の、足、の、短、き、と、其、不、性、之、長、也、を、り  
と、て、鶴、の、脛、也、よ、き、鳩、よ、切、り、を、り、痛、て、死、を、む、短、き、を  
免、の、足、也、能、短、小、健、だ、る、若、し、む、て、智、る、之、事、あり  
あ、ま、是、是、の、恰、好、い、ふ、と、て、其、自、然、小、短、也、れ、が  
之、用、也、あり、事、也、及、能、大、凡、人、其、意、の、用、有、事、也、知、て  
其、用、の、自、然、小、若、く、事、也、及、知、ら、づ、く、も、是、事、也、  
知、て、元、造、化、も、是、也、あ、ま、む、む、事、也、及、知、不、解、  
私、智、也、竟、地、利、て、目、こ、小、造、化、の、神、理、に、造、化、を、是、

本小棲りのあり水に遊く。此野小圃は云々元  
復む云々太之様と同じに云々之様徳本小より大  
上之事又徳馬の重き地負て重きにゆけ大猫のど  
荒地なり事又徳皆地の也くが少元とて其のあり  
あはれ天を交る所の性之蛇と地之性異して形又  
異なり蛇既是あり地の是ありしてのちあるの  
形地只知も事又大地は是なり蛇の百是地は  
測地してとて用而可我も亦は是なり同果之  
可いは是也やらんは是も尻尾らん我も可く我も  
今返るも我も事是なり此者の事とてをあると  
心は法を知らん事地只求打、款地頃てもいふ也

して習ひる事も可上福地地喰ひ下英泉地  
傾て世不求も可自ら鶴も元来らるは是也  
天命之生あはれ我も我も思はん也其祖之百歳  
七秋の月死るる事も其死一方向も元来同  
事之也して死生を色も其限已も福之也其禍あり  
らん事とて云々鳥之陰陽生殺の氣皆天の流  
吾之亦天地の月の一物也遺地の中ふして遺  
此の同業枯消を古出禍福遺地り命之遺地り  
あり事皆私地のみまぬる事其境も也其遺物者  
身地似せして自ら私意地容る事あり是也  
道は大意地知るなり

鷗鷗論道

鷗鷗お祝して江上控ぶ鷗鷗清くわそ欲で  
曰大なりこれ一元乃末運轉して造化は窮るべき  
とや美物其同一とてして成る事と敗る事あり  
果る事と垂る事あり其の相は同じきものの  
飛ぶ事の遊の動くもの静ありもの名は極く已まぬ  
而も皆自然の妙に其始はづ方なき来ると云事と  
只凡てしていさく引ては小成の云事なきは我に  
亦万物は数小連りて造化の中小控ぶもの物とや  
して是地不足の世乱我を如きの微物といふも  
天下の事あり貴きもの句 誰一人身はる系に

らんや又天地をくして是地凡れは六鵬の技拙  
羽うつて九万里小とりも大虚中の一物なは況や  
鷗鷗の千年万代の壽といふも命短くして死る  
自我を之に回して事之我を於てせめて久小死せと  
いふも我をしては一生を尽きては皆お断りなき  
鷗鷗言ふ事あり海中は浮鷗此云地中して云  
有相の上より海にれは世智なきの事あり中より  
曰大假命しては身はるの息小来り息小去りは皆  
定り而ある況やうらふべき安楽世界動けば首若  
牙小流の千態を小集り只凡塵地遊て江湖に及  
臨一世の善悪は皆ありてその因小生塵地送らん社

形川も事ありて云々物也云々万物を以てして宗  
海はるゆい誰色知る事之性もは形也云々  
出を死にる迄の言中は物ありば則ち中を以て宗  
付ての職分ありて職も以てして中にも抑ふもの也  
君子といふ其職也又勤くして形も私にるを以て  
小念といふは故に事悲き事面白き事おき  
事吉凶禍福是皆感蒙小節も是皆我地也  
造物を以て親父の如きも亦は海水のうらひに因  
著ても汝の才免小あはれ我も命の短きも我も生  
業も事ありては皆彼親父は其國之性も彼親父  
汝地也——我地也思ては別ありや皆己くは事

可の氣数乃自然なりて親父も公而く我も不知はに  
夫を公なりて務——我を山して事ありは又  
空を以て道化此中不控ひ空を以て流るべきの  
物也私智の性也我も佛も小能事計也之更  
して目こ小親父といふは汝も親父乃ゆる——あはれ  
事、流小公地音と汝色ありて思の外もはらけい  
ゆ来たりては乃小道も是は理小くは是道也  
ふありては事ありて是地帯もはらけ私智も免り  
自後——強くしては流地も——むとのあり

野鶴得矣

野小鳥大也其や謂て云々鳥類の地物小はきこひ



鹿井菜地増しといふ言成地して友地呼ぶといふ  
多て人共来集り地を網地たり粘地を我を小  
なり山小倉相立時人來りて採先ある南天の  
実地増しを尋む初事可増りおしきふまふ  
大さ成声也して粘地して増え百一粘小なりてと小  
只忙方地正くめてそのとあ地のけらりてかきり  
居るたといふは増りなり小小落る時とてと地  
初之汝名粘地なり中なる時ありてききたてめくた  
地方小粘地なり増り動事とありてとてとて  
只酒法の申すに事免者後時分末次を粘地ニツサヤと  
小倉知て云ふ小倉よりし初て一事いはい小あり

方名が小を細きたと地並例のどく増ささ  
下一落さば下ありたご地替小村又思ふ事あり  
さすとの物殿とありて深きなりあり地方り  
粘地ぬりて捕らり事同し事二世方小智の  
首野のどく已に事免地用ひて一旦事あり  
事ありて自備してり色ぬとてひり天下此人  
皆あるんや人共巧地知て事地なりとあり  
今迄の事免の巧皆流小あり却白仇と成て喝地  
指く事地只知昔唐云く其王江地後て祖サ小  
上河祖人地免て散礼して思方一返ぬとあり  
一みの祖とてふは云木の枝小飛はきふと粘地

ういじふあー 己の地獄にて人地海を呉王を  
ついで付き申す矢也其事物地拾ふらわー  
呉王迫信小命しては言ぐ一夜小矢地放るむ  
相千の小あふがれを意り其事又徳信小教意り  
己少智に伏して禍地招くを皆也

鷲鳥巧拙

鷲と鳥と拵ぶ鳥が云海地見り小長き野あをけ  
重寶小成死にふたははひり小頭地端きて  
さむさう小とくと有る危附の法らあつて成計と云  
きり 姫の長きに餘地あつてあり粗も云調法成  
中二世小如法意くとりは誘は汝より始きて汝世小

おむて何の徳あり我小家と出事あをバ世て  
未始小昔知らむ物り人々奇特也といはれ  
して却むあらむなれがあきあといひて我地小福  
物りて忌憚ふ是法にわぬ事い別と云海鳥が云  
汝小出地昔りて息にまこと我も人の為たれあ  
しきこそいれゆるを共小非也汝を其徳たくと  
實形くして人地心一人非地昔りてきて衣信  
也其却て我地持ふ事りうて忌憚ふ人々情之女の  
常世見り小荒地とんそて小家の危相地むら細  
府付相付る物地つきあらー人の福をとり  
樹木の菓地はまといあらう人の乾してあ物地

聲を聞きしやういふはくも事ありて  
鳴声は海鳥ももや海に人のいぬるを  
人小曲地音といふも徳ありて実を告る  
あはれ無常小感して言はれ鳴るも  
あはれ無常の事ありて只汝の祥の事あり  
人歌の只福の事ありて汝必其常小感して  
集る鳴るも是因声也。同常小感して  
いふは是也。人小感ありて人又汝の奇特  
ありんぬ。凡て汝の事ありて人小感ありて  
只祥の事ありて人小感ありて人又汝の奇  
ありて人小感ありて人小感ありて人小感

洞法ありて天性ありて分りて  
洞法ありて天性ありて分りて  
洞法ありて天性ありて分りて  
洞法ありて天性ありて分りて

庄子卷上終

田舎莊子卷中

菜瓜夢魂

東園其都より負山より山ありて  
東園其都より負山より山ありて  
東園其都より負山より山ありて  
東園其都より負山より山ありて

繡うて是や金中結靈胡小糸り捨きる物あり  
形やせし足あきてるるふ心感こころ事あり負山  
あり〜く世有皆あくのぶ〜 貴れふ奉て用らる  
〜も今日棄らねてわ〜う〜人あり 悔ふ小公あり  
用て用らる〜時感絶たぬ多し情小公たれがどく  
おもひ棄らる〜時怒いり獨胸にこころは馬戯相  
ありと〜も我れぞ感あ〜んや〜りて即收めて  
家小ゆり其腹小書〜て曰

索麩乾韃麻骨蹄 菜瓜美兮用成驄  
昨登蓮葉精靈架 今漂於沅溝沔中  
又作祭文弔之 八韵

為介形丕

以介質卑

生葉深山

誰得有知

般蔓圍園

非天非人

前喜後憂

暫感盛衰

一用成驄

不久見弃

結實僻地

辱亦不至

見七招事

自受之譽

始肥終悴

獨灑涕淚

書後つて菜瓜地枕りて寝たり 夜更菜瓜ありて  
かみ小まて云々方よりし所を世有為利の儀事〜之  
然道地の中〜りて道地の中小物と為るに



小徳民はくそてて、礼小あまのり、今竊して  
下に宿命の女也、汝安んて、子地はとあま也  
死を禍福、命あり、造化のち、雨雲、土、光、地、水、火  
くそ、の、世、得、じ、也、只、物、也、ん、也、の、世、害、也、ん、也、の、世、  
物、も、同、く、ん、也、止、事、也、得、る、も、得、ず、も、是、得、も、我、初、也、

巻之神道

朴舟こいそまあり、此、國、小、靈、社、と、い、て、諸、君、小、尊  
馬、き、夜、蒙、く、る、雷、汗、殿、小、い、ま、り、て、い、や、ら、き、ち、  
り、て、肝、膽、也、碎、き、て、祈、り、の、形、の、雨、上、堂、の、後、の、あ、ま  
ま、也、こ、う、き、の、木、柁、ぬ、の、こ、あ、い、た、り、て、雨、く、つ、ぎ、れ  
あ、の、い、ま、る、地、意、く、た、る、ぬ、ら、り、あ、ま、も、そ、ん、だ、る、き

あ、ま、の、来、り、彼、雷、小、因、く、云、汝、ゆ、の、の、あ、ま、其、法、が、ま、  
き、ま、り、く、う、て、月、夜、く、い、ま、の、常、命、く、其、相、也、ん、也、  
あ、ま、を、い、し、似、たり、ま、記、を、公、事、也、祈、り、を、こ、い、  
彼、雷、言、て、  
恥、を、あ、ま、子、く、し、ん、と、い、ま、あ、ま、物、れ、我、鼠、の、年、後、  
ま、の、人、我、天、性、才、性、く、く、く、木、梁、也、ん、事、人、此  
陰、地、也、ゆ、く、ま、り、也、ま、り、且、法、也、齒、也、あ、ま、向、  
陰、角、也、ん、い、ま、も、あ、ま、我、あ、ま、あ、ま、ゆ、く、ま、り、  
か、會、約、小、ま、り、い、ふ、れ、物、う、て、只、陰、こ、い、ま、  
あ、ま、の、神、也、の、神、也、れ、も、猫、こ、い、曲、の、あ、ま、  
あ、ま、の、神、也、の、神、也、れ、も、猫、こ、い、曲、の、あ、ま、  
あ、ま、の、神、也、の、神、也、れ、も、猫、こ、い、曲、の、あ、ま、  
あ、ま、の、神、也、の、神、也、れ、も、猫、こ、い、曲、の、あ、ま、

也を魚猫といふ世にありて、何れ重寶之なり  
先づいふ毎々、胎のむすば育也、世に人の秘蔵  
より洞窟に喰殺し、圍炉裏に遠く糞地に置きた  
猫あり、こゝ物小ありて、人の害と禍多し、こゝをみ  
物に我が所の所なり、欲深き物ありて、人の  
害也、去て活きよとの不取まて也、老人いふ、何れか  
何れに取れず、して来清、何れに云ふ、何れか  
暮田我の縁の不佳、暮に我母ありて、何れに云ふ、何れ  
人家に害也、ありて、人にいふ、こゝより、事之あり、姿醜  
れ、色に人小籠、黄やうり、事之あり、其食也、好まされ、  
資、途に、き、何れと、た、何れに、置、漁、ま、い、縁、の、下、に、在、て

我は小けもの小虫に捕て喰是、こゝ一生、事、は、是、取  
何れに云ふ、こゝ、神、い、何れに、汝、也、害、也、何れに、何れに、  
猫、也、中、に、む、い、ふ、と、り、之、を、れ、も、も、之、也、何れに、何れに、  
汝、い、よ、と、く、猫、也、い、よ、之、の、世、小、た、わ、て、之、の、物、之、漁、也、  
汝、也、捕、り、の、意、あ、り、何れに、何れに、資、途、也、何れに、何れに、  
是、也、洞、窟、あり、人、に、猫、也、也、也、何れに、何れに、汝、也、中、に、む、  
こゝの、甚、き、也、何れに、汝、猫、乃、母、小、を、事、也、何れに、汝、が、  
世、に、害、あり、こゝに、何れに、小、人、か、皆、何れに、汝、天、性、也、  
何れに、汝、が、洞、窟、に、持、た、る、也、何れに、小、上、に、置、き、何れに、  
實、也、何れに、い、何れに、食、也、何れに、何れに、野、山、に、汝、也、何れに、  
何れに、人、の、喰、あ、ま、し、何れに、何れに、拾、り、物、也、何れに、

汝は誰、汝はふくむてんを、猶也同云あるや  
汝人の、齒は持てて人の、齒を、所、ハ、中、事、後、を、て  
人、の、害、也、而、は、事、も、は、く、人、の、患、を、事、も、今、後、六  
五、句、汝、が、自、慢、の、齒、也、と、人、を、汝、は、好、ま、さ、し、て  
猶、也、同、云、く、汝、が、后、而、也、と、一、形、く、是、也、と、汝、の、小、分  
少、の、都、も、身、に、禍、と、ある、事、は、汝、の、齒、と、て、云、は、し、り、汝  
猶、也、悪、む、で、あ、る、事、也、神、の、祈、ん、を、分、か、ら、ぬ、故、に、  
人、家、の、害、也、而、は、事、も、く、世、界、の、害、也、の、猶、也、同、云、く、  
汝、の、身、也、小、く、は、る、事、也、た、む、と、一、句、汝、は、小、か、き、に  
人、の、我、身、也、は、憐、ま、だ、し、て、人、也、と、あ、り、小、か、ら、ぬ、事、は、  
神、の、祈、り、佛、の、教、も、人、の、常、に、神、は、非、禮、也、而、云、く、  
ま、け、の、事、也、神、も、く、神、也、は、善、惡、邪、也、と、云、は、し、り、  
あ、り、人、の、公、私、と、ある、相、あり、又、神、明、の、法、も、あり、  
及、ち、の、先、我、が、公、の、私、欲、妄、念、也、と、云、は、し、り、内、也、深、染、の、  
こ、も、是、也、内、法、淨、と、一、相、系、結、の、日、沐、浴、一、衣、履、  
改、修、織、も、物、也、且、僧、の、深、染、也、故、り、是、也、外、法、淨、  
と、云、は、し、り、外、法、淨、也、と、我、の、公、の、滅、と、は、神、明、也、淨、  
も、の、時、重、く、我、の、法、の、と、云、は、し、り、又、我、の、滅、也、淨、  
也、一、汝、也、と、及、毅、の、公、也、と、云、は、し、り、又、汝、の、公、  
滅、の、德、也、威、化、一、事、も、私、欲、妄、念、消、滅、一、滅、の、公、  
真、也、一、と、憐、れ、憐、れ、こ、の、中、一、事、也、と、云、は、し、り、  
是、公、即、神、明、の、本、格、一、の、ひ、て、善、善、の、感、也、と、云、は、し、り、

汝は誰、汝はふくむてんを、猶也同云あるや  
汝人の、齒は持てて人の、齒を、所、ハ、中、事、後、を、て  
人、の、害、也、而、は、事、も、は、く、人、の、患、を、事、も、今、後、六  
五、句、汝、が、自、慢、の、齒、也、と、人、を、汝、は、好、ま、さ、し、て  
猶、也、同、云、く、汝、が、后、而、也、と、一、形、く、是、也、と、汝、の、小、分  
少、の、都、も、身、に、禍、と、ある、事、は、汝、の、齒、と、て、云、は、し、り、汝  
猶、也、悪、む、で、あ、る、事、也、神、の、祈、ん、を、分、か、ら、ぬ、故、に、  
人、家、の、害、也、而、は、事、も、く、世、界、の、害、也、の、猶、也、同、云、く、  
汝、の、身、也、小、く、は、る、事、也、た、む、と、一、句、汝、は、小、か、き、に  
人、の、我、身、也、は、憐、ま、だ、し、て、人、也、と、あ、り、小、か、ら、ぬ、事、は、  
神、の、祈、り、佛、の、教、も、人、の、常、に、神、は、非、禮、也、而、云、く、  
ま、け、の、事、也、神、も、く、神、也、は、善、惡、邪、也、と、云、は、し、り、  
あ、り、人、の、公、私、と、ある、相、あり、又、神、明、の、法、も、あり、  
及、ち、の、先、我、が、公、の、私、欲、妄、念、也、と、云、は、し、り、内、也、深、染、の、  
こ、も、是、也、内、法、淨、と、一、相、系、結、の、日、沐、浴、一、衣、履、  
改、修、織、も、物、也、且、僧、の、深、染、也、故、り、是、也、外、法、淨、  
と、云、は、し、り、外、法、淨、也、と、我、の、公、の、滅、と、は、神、明、也、淨、  
も、の、時、重、く、我、の、法、の、と、云、は、し、り、又、我、の、滅、也、淨、  
也、一、汝、也、と、及、毅、の、公、也、と、云、は、し、り、又、汝、の、公、  
滅、の、德、也、威、化、一、事、も、私、欲、妄、念、消、滅、一、滅、の、公、  
真、也、一、と、憐、れ、憐、れ、こ、の、中、一、事、也、と、云、は、し、り、  
是、公、即、神、明、の、本、格、一、の、ひ、て、善、善、の、感、也、と、云、は、し、り、







治りてゆき一我の身の内大國ありし頃却て  
今もてまやれ進國に肩せりし方なきも外に  
証する時今我の勇士最後世守波一甲新打取被  
と云事下り入て國小休む時後未士進賢小国に  
古今の事と論じていれり、泣歌の声、耳に悦り、  
業家の兵、自に悦び、男女の使、令内流、此、抱、感、  
杯の滋味、一、つ、つ、て、是、ら、は、云、事、を、く、天、下、此、樂、を、悉、  
こ、小、あり、と、な、り、今、生、殺、つ、き、命、終、て、形、は、去、り、  
心、亂、散、と、天、地、已、戴、地、球、已、履、上、小、君、を、く、下、に、信、可、  
出、て、敵、國、を、制、し、る、の、昔、昔、を、く、入、て、民、を、治、む、と、云、  
つ、は、し、る、一、世、乃、治、亂、を、と、あ、つ、く、ば、風、俗、の、美、惡、を、と

う、る、美、を、物、と、是、れ、也、事、小、ん、之、可、天、下、此、樂、也、  
信、也、然、る、う、て、太、虚、の、空、海、の、王、公、其、富、貴、こ、し、も、  
共、小、治、り、小、是、ら、は、い、れ、ど、千、載、の、祀、也、わ、り、と、む、也、い、れ、ど、  
亦、人、を、事、せ、う、と、い、ん、也、負、心、云、天、下、此、治、亂、國、の、海、を、  
必、孫、の、業、存、万、民、の、國、若、水、と、云、く、ば、水、に、是、も、亦、  
さ、い、か、一、是、也、い、て、必、樂、と、も、り、也、云、海、東、越、り、天、下、  
天、下、乃、之、あ、つ、て、任、じ、一、國、は、一、世、の、自、有、く、任、を、我、も、孫、  
こ、し、も、と、也、隔、り、の、旅、我、も、自、有、く、任、を、我、も、也、  
こ、し、も、事、也、彼、也、を、と、も、事、也、彼、也、を、と、も、事、也、  
去、惡、の、自、之、況、也、天、地、の、運、命、は、道、物、者、是、地、日、の、運、  
天、下、此、自、之、也、也、道、物、者、の、余、也、之、て、是、也、任、を、自、也、



鳥の来て喰らん事と云ふは興樂ありは必は憂あり  
事世の中は常は分音精神氣血とも小海小濠り  
大濠をわけて之事小樂む色又は此を求めん生欲  
好まむ死地ゆくまむと古曲兼辱すつゝ知るとか  
風は吹きては風は冷て花あはれ風止む秋色又はむ  
さよと云ふ形敷き是れ打てては痛まむ自らいひ  
事ありれば天下憂り事なくはり事か 王公は憂  
ひたりるふはらば其笑は我なきはたはは若樂嬉笑の  
さうはまぬるまをり 佛は寂滅為樂と云ふのも悲  
感あり 蟬と云ふは秋の解脱の人也我病世欲て世  
疾かす家とし、まゝ生れり事とまぬるまは形を

人世は虚正なるのたやせん脱が云我知る事あり  
然るとも竊ふ閑事あり 造化我知る事あり  
之中一小物に死生禍福命之是也色一して其を我  
繁累一是也色をてはまは地者一む其方は及  
我思ひ其知の只徒はを憂るまは為のまは只物に  
ありまむとありあり安んじく私言客事あり  
天下は至樂也然て物なきはまはらる事か 生る  
時と云ふは地を一死生を時と云ふは其歸地安んじる色  
はのむつゝし事ありありむ

貧神夢會

一を休沐と云ふあり 身格と云ふ貧之常小大黒天地信

福地新也とも云ふ一可哉此の言小所はばくとも云ふ  
七福神集あひま羅針蓋り一也程く及父の物及兼  
金銀の班あひま程く此酒青は烟一筆之味濃味  
亦信女の風衣也集其程真味あり又信也をきバ  
あまはゆ〜く腹あたら〜すか〜不道也者一乞食の如  
かり者とも豆腐の如きあどは〜と〜ひ〜さ〜らに  
多右より其中より六人別也もあまそとひ〜ま〜り岩の  
より小腰を〜け清水の流き不道也流し腹也す〜ゆい  
又一最切の程也程也程心程ふ次あり其音也  
ゆ〜く〜う〜て〜ゆ〜ま〜じ〜兼〜も〜あ〜む〜七福神は  
程也〜り〜ゆ〜ふ〜た〜〜す〜程也程也程也小也〜側也

まゝ来て 清きい 成人をれが 其のさぬ 凡〜く〜云て  
塵く七福神の 其地也 一〜方 兼〜も〜誰小輝心也  
あ〜く〜ゆ〜く〜う〜て〜真也 清り〜ふ〜れ〜く〜ゆ〜く〜ま〜と〜り〜破  
留者 兼〜も〜云〜あ〜く〜ま〜ゆ〜り〜ゆ〜れ 其心即悟の〜も〜云  
い〜せ〜え〜て〜色〜ゆ〜て〜も〜心〜の〜は〜ぬ〜も〜竟〜舜孔子と相若  
〜して〜色〜道〜小〜進〜じ〜事〜い〜ま〜ま〜の〜我〜も〜貧〜乏〜神〜之〜音  
い〜ま〜被〜福〜神〜小〜ま〜ま〜事〜あ〜ん〜や〜被〜之〜我〜も〜皆〜余〜也  
あ〜ま〜色〜ゆ〜り〜被〜号〜天子公卿 亦〜も〜家〜板〜富〜有〜り  
町人 兼〜も〜親〜之〜程〜の〜兼〜親〜也 兼〜も〜一〜も〜成〜徳〜此〜小  
親〜も〜事〜を〜我〜も〜程〜也 兼〜も〜あり〜ひ〜も〜唐〜七〜也〜を  
兼〜も〜許〜由〜孔〜門〜く〜顔〜淵〜也 兼〜も〜憲〜也 兼〜も〜親〜也

草瓢酒卷の王公は山黄の易の樂地を知り  
故に彼を以て種裔を瑞備せ暮れ共食也餘は  
世樂を以てしるも菊一束を以て汝の貧を以  
命命を以てしるも大黒を以て七福神に祈りては彼を  
汝に親む事と彼を以て自由の事と汝の心豆飯ハ  
ゆりて汝に彼を以て自由の事と汝の心豆飯ハ  
され汝に汝に親む事と彼を以て自由の事と汝の心豆飯ハ  
の種裔を以て神長之是号は外にありて汝に親む事と  
るるにありて汝に親む事と彼を以て自由の事と汝の心豆飯ハ  
有りて汝に親む事と彼を以て自由の事と汝の心豆飯ハ

心は諸事入の汝に親む事と彼を以て自由の事と汝の心豆飯ハ  
妻況を以て私取割の儀問訊方唐を指すは汝に親む事と  
亦に徳安野國親方初めは汝に親む事と彼を以て自由の事と  
心は諸事入の汝に親む事と彼を以て自由の事と汝の心豆飯ハ

月日

津切依汝に親む事と彼を以て自由の事と汝の心豆飯ハ  
妻況を以て私取割の儀問訊方唐を指すは汝に親む事と  
亦に徳安野國親方初めは汝に親む事と彼を以て自由の事と

尚寧様御代唐の美曆年同共七年徳安野國唐の  
寺苗抄下は由候間親方より野國の寺苗貴元  
権柄小波傳文は之重に権柄徳安の長海新り





三浦戸頭成城間親とて思官と云はれ生て啞子  
漢書に教訓未だ云々といはれ村角と云はれ力多し由  
八歳此日天指矢の如く回の種子自今父之先及  
少好是右神と云はれ返答云々とい自今其好言山也  
目より山有新見完と著時と致由家右邊二十日海及忽  
嘗此少致悦如天地之運る今日月之外況道地  
致發明の如くはれ此與後一事一物と云はれ其致如來  
少好は是れ致と云はれ理力致と更由は是示自今兒論  
本力と致右ははれ自今測る是其妙法致自持  
兒と是れ端本力といはれいとお光如物笑はれい如り  
是致試下と云はれ端本力は自今端本力應前也

是致之語を致也見逐也と神在是地より由は或ハ  
村中と云はれ其同乃西東造致其其云云出安山  
亦いはれ其上今羊と云はれ其自今自今同也  
致也其即別而も其自今同也と云はれ其自今如  
之恙也其自今自今隣入と云はれ其借用阜上  
其自今地之其自今自今後也其自今在書也其自今  
其自今書今礼合はれ其自今一事之誤り云々其自今池水  
其自今はれ其書はれ其自今生れ也其自今虎王右軍と云はれ  
其自今古人と云はれ其致難書と云はれ其難凡今傳也  
其自今其自今其自今其自今其自今其自今其自今  
其自今其自今其自今其自今其自今其自今其自今  
佛書と云はれ其自今其自今其自今其自今其自今其自今其自今

上聽





用依中籍記

同治元年成奉書寫

松翁

濟山共人

富宗

